

山桜の里 戸赤

栽培 花豆

貴重なもの 戸赤の花豆



会津産として
大事にして「花豆・パイ」にしていきたくと思
つております。不作だったため買い取り価格
を引き上げ農家さんの売上が減らないよう
にしました。花豆・パイの価格は来年度より値
上げすることになると思います。
花豆作る方をふやすことも重要な課題と
考えております。

（株）おくや松崎社長談
ことしも無事買い取りが終わりホッ
としております。花豆、今年は裏磐梯
がヒョウ害によりほぼ全滅してしま
いました。ただ北海道は例年並みの収穫
があり安定している相場です。戸赤の
花豆は、全体的に粒が小さく、取れ高
は少な目では
少ない目では
た。会津産花
豆としては
今年是非常
に貴重なも
のとなるの



ことし第2回目の花豆集荷、12月16日
(第1回10月15日)

「うつくしま観光プロモ
ーション推進機構」発
行の観光情報誌2014
秋号に「花豆パイ」掲
載

寄り道 グルメ 下郷町



(イメージ)

花豆パイ MAP C-4

下郷町戸赤地区でまちおこし
の一環で生産された花豆を使用
したスイーツ。地域限定で販
売しています。

圖 戸赤村づくり実行委員会
TEL 0241-67-2020

平成26年花豆集荷実績

花豆A	320.2 kg
B	61.6 kg
虎豆	15.0 kg
小豆	39.4 kg
ささぎ	4.0 kg
うずら	3.0 kg



ありがとう「ふるさと納税」

平成26年度中にふるさと応援寄附金を
寄せられた方々 (10月末現在、順不同)

室井 美二 様	(鹿児島県曾於市)
加藤みえ子 様	(東京都練馬区)
星 博勝 様	(東京都西東京市)
佐藤 学 様	(東京都世田谷区)
星 忠雄 様	(東京都江戸川区)
高橋 一久 様	(埼玉県川口市)

▼贈呈品
①5万円以上の寄付者
3,000円相当の町産品
②10万円以上の寄付者
5,000円相当の町産品
*内容は選べません。

■課税係 ☎0241-69-1155

町産品として「花豆パイ」も仲間入り、ふるさと納税者へ贈呈される
(しもごう広報12月号)

【木地の学習No.50】安政二年当時只見町布沢の木地小屋は二ヶ所あったが、「蛭谷氏子駈根、安政四年」には、
綱木木地師と記載されているので次郎右衛門は布沢村綱木へ移動したことがわかる。平左衛門は賣中から
慶応頃九々明へ移り、子孫は昭和四十年代まで居住、その後河東町へ移転して現在に至っている。文
政十年糸沢にいた角右衛門は、森戸大内沢、川衣、滝ノ原、旭ヶ枝、藤生へ、甲州生まれの与市は、滝
ノ原、岩下戸倉沢、八総柴倉、大芦金石川、沢中村へ、織右衛門は文化七年信州から岩下戸倉沢、数間
沢、大戸間川、中山三河山、沼ノ原、喜多方へと移動している。粟生沢相原一族と山の神 粟生沢集
落は湯田姓が主流を占め、次に相原姓と他姓の人員で構成されている。集落民全員で祀る大山祇のほか
に相原氏を中心とした一二軒で祭祇する「鈴倉山ノ神」がある。元来は相原氏だけで祀る同族氏神的な
山神であったと思われる。通称鈴倉とよばれる集落背後の低い尾根上にあり、木祠の中に丸彫り夫婦像
が納められている。相原一族はこの像を「親王様」と呼びならわしている。彼らには木地師の子孫であ
るとい伝承がのこされていることから、御神体の「親王様」は木地師祖神である「惟高親王」と思われ
る。〔会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より (つづく)〕

雪と向き合う毎日、無事にシーズン乗り越え、熟成されて春を待つ

12月26日午前5時56分 赤土

道路は血管 除雪なくして生活なし



(ストーリー性のある村づくりのために[No.19]・下郷町史 南倉沢遺跡で出土した常世式土器には、海産の貝殻の縁を押捺した文様がみられ、間接的かもしれないが、海岸地域との交易があったことがわかる。… 前期 早期の遺跡は当地方においては比較瀧山間部に営まれる例が多いが、前期の遺跡の立地も早期の遺跡に類似することは南倉沢遺跡の発掘調査からも明らかである。… 中期 縄文中期の遺跡は南会津の場合、大川本流を望む河岸段丘上に占地することが多く、本町では栗林遺跡や湯野上遺跡・萩原遺跡・御霊平遺跡・中丸遺跡が代表的遺跡であり、何れも河川との比高差がある開けた場所に占地しており、南会津全体でも田島・寺前・上ノ台・寺沢山・伊南・堂平・館岩・松戸原・岩窓の各遺跡においても同様の傾向が窺われる。下郷町の山間部に位置する南倉沢遺跡・稲干場遺跡の発掘調査では早期・中期・前期・後期に属し、中期が欠落しており、中期とそれ以外の時期で立地の相違がみられる。…湯野上遺跡の縄文土器は縄文中期から後葉にかけてのものが大半で、同時期の四棟の竪穴住居跡が検出されており、田島寺前遺跡の発掘調査でも三棟の竪穴住居跡が検出されて定住生活が窺われる。

「下郷町史-第7巻通史編 (発行・下郷町)」より出典 (続く)」